

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年1月30日

協議会名:河内長野市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

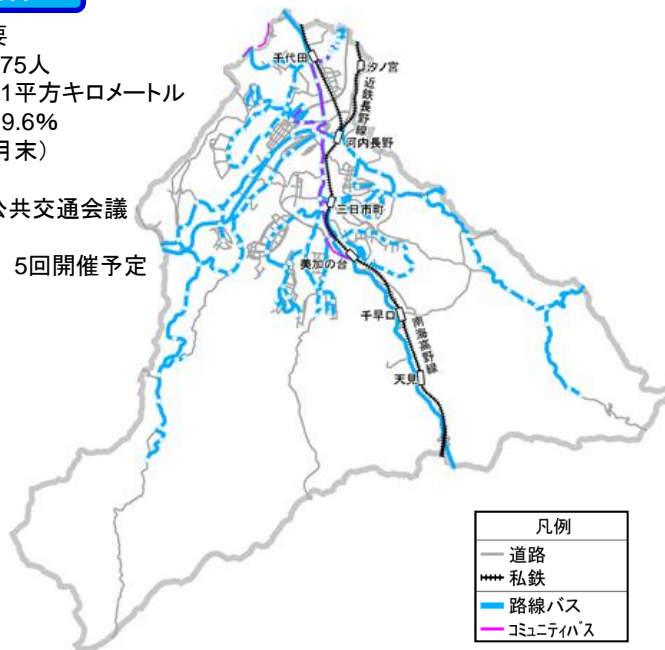
①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加(※輸送人員が対前年度比率+1%) 101%(25/24年度+1%)→(実績)97.2%(26/25年度)で未達成	○要因分析 輸送人員について目標が未達成なのは、大雪(運休)や台風(8~10月の週休日の平均乗車数136人に対し、台風がきた週休日の平均乗車数は53人)の影響を受けたことも、要因の一つと考えられる。 ○今後の改善点 沿線上の地域活性・交流拠点(奥河内くろまるの郷)や商業、観光施設などをバスマップや観光チラシ等で積極的にPRすることにより、さらなる利用者増を図っていく。
南海バス株式会社	路線バス小深線2(石見川系統)	○前回の事業評価結果(期間の長短にかかわらず)取組内容について、実施後の効果検証を十分された。 ○事業評価結果の反映状況	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:96%→(実績)101.9%で達成	
南海バス株式会社	路線バス高向線1(高向起終点系統)	・施策実施後の効果検証を行うため、バスマップ作成・配布後、アンケートを実施。 ・アンケートでは「市内すみずみまでバス路線があることが分かった」、「急に乗る時に役立ちそう」といった意見があり、認知度向上や利用機会の拡大といった点では一定の効果を確認。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:83%→(実績)102.1%で達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線5(旭ヶ丘系統)	・一方で、「掲載する施設の数やイラストや絵等を増やしてほしい」といった改善意見もあり、現在作成中のバスマップやチラシに反映し、利用促進に努めている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:90%→(実績)93.5%で達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線4(天野山起終点系統)	・加えて、企画乗車券のPR、日野・滝畑コミュニティバスのルート見直し検討・実施など、更なる利用促進も併せて実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:94%→(実績)105.5%で達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線3(サイクルセンター系統)		A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:100%→(実績)111.6%で達成	

### 目的 計画 目標 (P)

- 事業の目的  
公共交通の利用促進につながる取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図る。
- 事業内容
  - ・バスマップの作成、配布
  - ・観光施設との連携を図った観光チラシの作成・配布
  - ・路線バス(千代田線)の上限200円運賃の試行運行
  - ・路線バス(南青葉台線)のフリー乗降の実施
- 定量的な目標(各路線における対前年度比)
  - ・運行回数の維持
  - ・輸送人員の減少幅の抑制もしくは増加

### 概要図・参考資料

- ・河内長野市の概要
  - 【人口】 110,975人
  - 【面積】 109.61平方キロメートル
  - 【高齢化率】 29.6%  
(平成26年12月末)
- ・河内長野市地域公共交通会議  
開催状況  
【平成26年度】 5回開催予定



【河内長野市の公共交通網】

### 具体的取り組み (D)

- 「第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画」及び「地域協働推進事業」等に基づく、公共交通の利用促進につながる取り組みを実施(平成25年10月～平成26年9月)
  - ・「河内長野市バスマップ」(1部5枚綴り・クリアファイル入り)を50,000部作成し、平成25年11月号広報紙に折り込み全戸配布するとともに、転入者に窓口にて配布。
  - ・「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)を5,000部作成し、駅・観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布。
  - ・平成25年10月26日より、路線バス(千代田線)において、上限200円運賃での試行運行を実施。
  - ・平成25年10月26日より、路線バス(南青葉台線)において、フリー乗降の実施。
- 事業者(南海バス)による取り組み
  - ・駅前ターミナルで従業員が時刻表・企画乗車券チラシを配布し、利用促進PRを行った。
  - ・ホームページ内で河内長野市域を対象とした企画乗車券(モックルカード・ワイドモックルカード)のPRを実施するとともに、コミュニティバスの案内一覧を増設(市ホームページへもリンク)し、コミュニティバスの案内を図った。

### 取り組みに対する評価 (C)

- 目標達成状況(平成25年10月～平成26年9月)
  - ・運行回数：対象6系統全てで運行回数の維持ができ、目標達成。
  - ・輸送人員：対象6系統のうち、5系統は目標達成。残り1系統は、減少したことにより目標未達成。
- ※目標未達成の要因の一つとして、大雪や台風の影響が考えられる。

### 自己評価から得られた課題、対応 (A)

- 今後の対応  
「第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画」、「地域協働推進事業」及び「第3期河内長野市地域公共交通網形成計画」等に基づく、バスマップや観光チラシの作成・配布、地域でのワークショップの実施、コミュニティバスの運行ルートの見直し、ICカードシステムの導入など様々な公共交通の利用促進につながる取り組みを実施する。

### アピールポイント、特に工夫した点など

- 「河内長野市バスマップ」では、地図ベースで主要な鉄道駅別に、系統別のバスルートがわかるバスマップと、バスから鉄道への乗り継ぎに便利な鉄道駅のダイヤを併せて配布した。
- 「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)では、企画乗車券(モックルカード・ワイドモックルカード)の提示により観光施設への入場料を割引するなどの特典を施設側との連携により実現した。